

動き

特別委員会

高校特別委員会

特別委員長が逝去され、県立高校統合等調査特別委員会は、最終的な見解を提示するに至った。また病院経営特別委員

(はじめに)

も結論に至った。角館病院を「本院」、田沢湖病院は「分院」とし、診療所を含め医療ネットワーク化する当局案に賛成した。議会改革をいっそう進めるため議会改革推進協議会が設置された。仙北市議会も基本条例づくりに取り組むことになった。

平成18年11月27日付けで仙北市議会に角館高校、角館南高校の存続を希望する会(高橋雄七会長)より両校の存続に関する特別委員会設置の要望書が提出され、市議会はこの要望の趣旨に添った調査研究に取り組むこと

(経過について)

県教育委員会が平成17年7月に示した「第五次秋田県高等学校統合整備計画」の後期計画に、新たな基準が設けられ角館南高校が、この統合計画の対象になった。

少子化による当地区の生徒数の減少と、両校の著しい老朽化は教育現場を知るものしか理解出来ない。特に角館南高校は耐震度調査の結果倒壊の可能性が高いとされている。

当委員会は実現する会を始め、市当局、市教育委員会、県教育委員会、



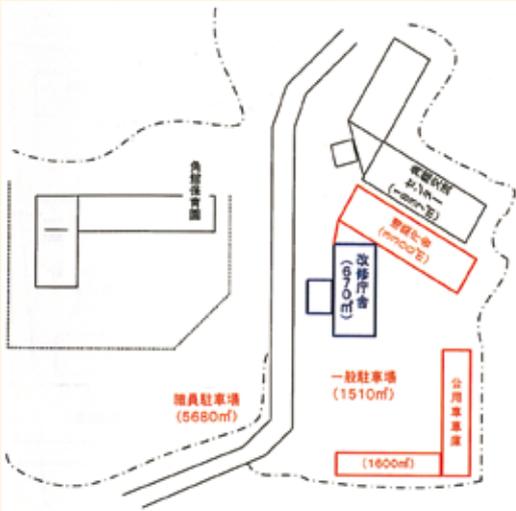
統合計画の対象になった角館南高校

角館高校、角館南高校の各校長、大仙美郷仙北選出の県議会議員、各中学校長など計16回の意見交換をして来た。

県教委の再編計画に反対する地域を置き去りにする姿勢に問題があるにせよ、大曲仙北地区の中学卒業者は十年後に、約4百人近い減少となるこ

とから、再編整備の基準となる「学級定員数40人」「学級数4〜8学級」の確保は大きな課題となる。特に角館南は現存1学年3学級の35人の定員であることから、これ以上の学級、定員減はあり得ない。以上のことから仙北市だけの努力で、2校並立存続は現状に置いては厳しいと思われる。調査特別委員会の結論は、仙北市にふさわしい高校教育の体系を新たに構築し、早急に県教委と協議を計るべきと考え

仙北市庁舎整備で市長試案示される



市長は就任当初から分庁方式の庁舎を、より効率の良い本庁方式への転換を打ち出して来た。平成19年7月に庁舎内に「仙北市庁舎整備調査ワーキンググループ」を立上げ、効率のよい行政運営を行うために、庁舎整備をどう行うべきか、検討作業を進めてきた。

検討会議や現地調査・視察を重ね、平成20年12月に「庁舎整備に関する総合報告書」を市長に提出。市長はこれを受け今年の2月に市民へ報告書を公開しパブリックコメントを募集、その寄せられた意見をふまえて、3月31日に整備方針の市長試案が示された。その試案によると整備事業の時期は平成24、25年度。建設地は角館交流センター付近とし、交流セ

ンターと健康管理センターの間に3階建の庁舎を増築。概算費用は10億5千6百万円。



市長試案の角館交流センター周辺